

公益社団法人日本 WHO 協会

2013年度事業報告

(2013年4月1日～2014年3月31日)

1. 啓発事業

(WHO 憲章精神の普及及び健康に関するセミナー等の開催並びに機関誌広報等の啓発事業)

① ウェブサイトの拡充とメールマガジン発信

ホームページにおいて、組織基本情報、WHO 憲章や組織に関する情報、機関誌内容等を公開、適宜更新するとともに、WHO から発信される情報の紹介や WHO 神戸センターのイベント情報等を逐次掲載し、健康啓発情報についての広報発信を行った。また、メールマガジンについても継続発刊（49号～70号）し、タイムリーな健康啓発情報の発信を行った。（配信数 1900）

② セミナーの開催

WHO への理解を深め、健康への関心を高めて頂く目的で次のとおりセミナーを開催した。

◎2013年6月1日（土）TICAD V 公式サイドイベント(参加者数：131名)

テーマ：「アフリカの健康・水・いのち」

ファシリテーター：大阪大学教授 中村 安秀氏

「アフリカの健康課題」

講師：日本WHO協会理事長 関 淳一氏

「アフリカにひろがる母子手帳」

講師：国際母子手帳委員会 板東あけみ氏

「SARAYA East Africa が始動するまで」

講師：サラヤ(株) 代島裕世氏

「安全な水を世界の人へ」

講師：日本ポリグル(株) 水野花菜子氏

「村で守る母子の健康～HANDS ケニアのとりくみ～」

講師：特定非営利活動法人 HANDS 網野舞子氏

「アフリカの健康を守るには？-ケニアの人々が教えてくれた大切なこと-」

講師：慶應義塾大学薬学部5年生 桐山純奈氏

◎2013年6月13日（水）第3回禁煙セミナー(参加者数：41名)

「たばこ対策の最近の動向」講師：

大阪府立成人病センター がん相談支援センター顧問 大島 明氏

「見える、確かめられる タバコの煙の歯と口の健康影響」

講師：福岡歯科大学教授 埴岡 隆氏

◎2013年7月20日(土)第17回関西感染症セミナー(共催)(参加者数:918名)

「感染症対策の甘い罠 ～目を覚ませ!ITC～」

講師:浜松医療センター副院長 感染症内科科長 矢野邦夫氏

「耐性菌総まとめー新たな耐性菌、海外の状況も含めてー」

講師:京都薬科大学副学長 微生物・感染制御学 教授 後藤直正氏

「今、風疹が危ない」

講師:国立感染症研究所感染症疫学センター 第3室長 多屋馨子氏

「こうすれば出来る内視鏡の感染管理」

講師:大阪大学医学部附属病院 臨床検査部 主任 西功氏

「ITCが制御可能なSSI対策について」

講師:大阪労災病院 肝胆膵外科 部長 清水潤三氏

◎2013年9月22日(日)日本国際保健医療学会学生部会(jaih-s)との

共同企画人的貢献推進セミナー(参加者数:95名)

「健康への架け橋 HIV/エイズ、ジェンダーから見る国際保健医療」

講師:大阪府立大学人文科学系教授 垣本 和宏氏

「若年妊娠から考えるジェンダーと健康」

講師:長崎大学大学院助教 西原 三佳氏

◎2014年2月13日(木)フォーラム「高血圧 サイレントキラーの正体」(参加者数:99名)

「国際共同研究からわかった血圧を上げる生活習慣」

講師:滋賀医科大学教授 三浦 克之氏

「高血圧の予防と治療のための食生活改善戦略」

講師:大阪市立大学教授 由田 克士氏

③ 機関誌の発行

「目で見えるWHO」誌を次のとおり継続発行し、より啓発効果を高めるため、会員やイベント参加者等関係先への配布のほか、国立国会図書館をはじめ都道府県立図書館等へ送付した。

第52号 特集「TICAD V」 2013年7月(3000部)

第53号 特集「WHOへの人的貢献」 2013年11月(2000部)

第54号 「高血圧」ほか 2014年3月(3000部)

なお、54号について、校正等の事情で印刷、配布は4月となった。

④ その他啓発事業

事務局に対しては日常的にメールや電話によるWHO関連情報に関する問い合わせがあり、協会の立場を明確にしつつWHOウェブサイト検索方法の指導等による啓発を行った。

2. 研究事業

(健康に関する調査研究の受託・斡旋・委託及び助成並びに研究成果に基づく提言等の研究事業)

WHO が健康課題テーマ毎に概要をまとめた WHO ファクトシートに関して、その内容分析の調査研究を受託のうえ実行した。その過程において WHO 神戸センターの指導協力の下に WHO ファクトシート日本語版として翻訳のうえ協会ウェブ上での公開を行うことについて WHO の許可を取得した。

3. 連携事業

(国内外で健康に関する社会貢献活動を行う企業、団体並びに個人との連絡・調整・協力等の連携事業)

- ① 大阪市立大学のシンポジウム「たばこの身体への影響を考える」健康教育支援事業、(財)日本国際連合協会の国際連合公用英語検定試験事業、大阪糖尿病協会の「世界糖尿病デーおおさか 2013」事業について後援名義使用を許諾し、事業に協力した。
- ② 日本国際保健医療学会学生部会 (jaih-s) との協力により、2013 年 9 月 22 日人的貢献推進のための人材開発セミナー事業「健康への架け橋 HIV/エイズ、ジェンダーから見る国際保健医療」を共同開催した。
- ③ ストップ結核パートナーシップ理事への就任を通じて、啓発広報の協力等の協力関係を構築した。

4. 支援事業

(WHO の事業目的達成に寄与するための募金活動及び募金収益の拠出並びに活動協力等の支援事業)

- ① エイズ撲滅を進める目的で募金活動をセミナー等の機会を活用して継続実施し、集まった金額に事業費を加え、エイズ撲滅基金への拠出支援を行った。(10 万円)

5. 人材開発事業

(国内外の健康の向上につながる人材の育成・援助等の人材開発事業)

- ① 日本から WHO をはじめ国際保健衛生分野で活躍する人材を増やす人的貢献の推進をかかげ、国際保健医療学会学生部会とともにフォーラム「健康への架け橋 HIV/エイズ、ジェンダーから見る国際保健医療」を開催した。
- ② WHO 本部事務局及び WHO 本部 GHWA のインターンシップ、WHO 西太平洋地域事務局ボランティアで支援要請のあった 3 名に対し、活動支援助成金(10 万円/人)を提供し、そのうち上半期に終了して帰国した 2 名より報告を受け、機関誌に報告記事を掲載した。

6. その他事業

(その他本協会の目的達成に必要な事業)

① WHO、WKC 及びその関係者との交流を深めた。

WKC イベント等の告知広報の協力、WKC フォーラム等への参加や情報交換による交流を行った。また、WHO ファクトシートの翻訳に関し、WKC の指導支援を頂きながら進めていく協力関係を構築した。